

乳がん“検診”従事者から一言 広報げろ 2019.4

乳がん“検診”従事者から一言

日頃、金山病院乳腺外来の乳がん“検診”をご利用いただきありがとうございます。今年度も5月頃より“検診”を受け付けています。そこで今回は“検診”を受ける際の心構えについてお話します。

乳がん“検診”は乳房に異常を感じていない方が受けるものです。少しでも異常を感じている方または経過観察を指示されている方は“検診”を受けないで、医療保険を使って乳腺外来を“受診”してください。“検診”と“受診”は検査の内容が異なります。下呂市の“検診”方法はマンモグラフィー（40歳以上）かエコー検査（30歳代）ですが、“受診”では原則として両方を行い、見逃しを防いでいます。

乳がんを早期に発見するためには毎年一回はマンモグラフィーとエコー検査を受けると良いのですがマンパワーや費用、検査の妥当性などの点で当面現在の体制をとっています。

毎年、年度末には“検診”の予約が混み合いご希望に添えないことが多くなります。余裕をもって年度初めからの予約をご利用ください。

乳房には様々な異常が見られますが、生理前の異常の多くは心配ないものです。“検診”や“受診”の時期は乳腺の反応が落ち着く生理が終わるころ（生理が始まって5日から10日頃まで）が最適です。閉経後はいつでも検査可能です。

エコー検査を受ける際には背部から胸まで覆えるバスタオル、ゼリーを拭き取れるフェイスタオルを持参していただくと幸いです。病院でも検査用ガウンは用意していますが、持参していただくと病院も助かります。なお、エコー検査では前胸部全体と脇の下にエコー端子を当てますので上半身は裸になっていただきます。

エコー検査は、受ける人にとっては簡単で害のないものです。また、エコー検査では積極的な治療が必要な乳がんのほとんどを発見することが可能です。しかし検査する側からみると、見逃がしを防ぐために大変神経を使う検査です。そのため一日に検査できる人数には限りがあるので予約していただくと大変助かります。エコー検査の最大の利点は被検者が目の前にいるので納得できるまで検査できるということです。

マンモグラフィーで要精密検査という結果を受け取ると、多くの人はがんを心配して来院されます。乳がんの多くが発見される年代では、マンモグラフィーでは多くの影が重なって映し出され、その中から異常を見つけ出すのは至難の業です。雪野原の中に白兎を探すようなものとたとえられています。また、マンモグラフィー“検診”では、読影診断の場に被検者はいなくて、一方向一枚の画像しかないことが大きな診断困難要因となっています。

そのため、カテゴリ③は、マンモグラフィーでは判断できないからエコー検査を受けましょうという意味であり、カテゴリ④はがんの疑いがある、カテゴリ⑤はがんということなので、心を落ち着けて精密検査に臨んでください。マンモグラフィー“検診”で精密検査という結果が出ても、がんであることは少ないのですが、がんの可能性も考え必ず精密検査を受けましょう。また、マンモグラフィーではエコー検査では発見できない、微小な砂粒状の石灰化のみを所見とするがんが発見される場合もあります。しかしこの割合は少ないものです。

“検診”や精密検査で経過観察を指示された方は以後、“検診”を受けることなく、指定された時期に、前回の所見と比較するために、精密検査を受けた乳腺外来を“受診”してください。

下呂市立金山病院 乳腺外来 古田智彦